

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【公開番号】特開2015-183105(P2015-183105A)

【公開日】平成27年10月22日(2015.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2015-065

【出願番号】特願2014-61242(P2014-61242)

【国際特許分類】

C 09 D 201/00 (2006.01)

C 09 D 5/44 (2006.01)

C 09 D 5/02 (2006.01)

【F I】

C 09 D 201/00

C 09 D 5/44 B

C 09 D 5/02

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月6日(2017.1.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

乳化重合樹脂を含むアニオン電着塗料組成物であって、

前記乳化重合樹脂は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤(A)および硬化剤(B)を含む水系溶媒中で、重合性单量体(C)を乳化重合して得られる乳化重合樹脂であり、

前記乳化重合樹脂における各成分の質量比率は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤(A)20～50質量%、硬化剤(B)20～50質量%および重合性单量体(C)20～40質量%である、

アニオン電着塗料組成物。

【請求項2】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤(A)が、数平均分子量5000～50000である、請求項1記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項3】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤(A)が、酸価20～150mgKOH/gである、請求項1または2記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項4】

前記アニオン電着塗料組成物の樹脂固形分に対する、前記乳化重合樹脂の樹脂固形分比率は、80～100質量%である、請求項1～3いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項5】

前記カルボキシ基含有樹脂乳化剤(A)は、カルボキシ基および水酸基を有するアクリル樹脂である、請求項1～4いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

【請求項6】

前記硬化剤(B)は、メラミン樹脂硬化剤およびブロックイソシアネート硬化剤からなる群から選択される少なくとも1種である、請求項1～5いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

**【請求項 7】**

前記重合性单量体 (C) は、アルコキシリル基含有重合性单量体を、重合性单量体 100 質量部に対して 0.5 ~ 1.0 質量部含む、請求項 1 ~ 6 いずれかに記載のアニオン電着塗料組成物。

**【請求項 8】**

乳化重合樹脂を含むアニオン電着塗料組成物の調製方法であって、

前記乳化重合樹脂は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) および硬化剤 (B) を含む水系溶媒中で、重合性单量体 (C) を乳化重合して得られる乳化重合樹脂であり、

前記乳化重合樹脂における各成分の質量比率は、カルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) 20 ~ 50 質量 %、硬化剤 (B) 20 ~ 50 質量 % および重合性单量体 (C) 20 ~ 40 質量 % である、

アニオン電着塗料組成物の調製方法。

**【請求項 9】**

前記乳化重合樹脂は、硬化剤 (B) およびカルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) の一部を含む水分散液に、重合性单量体 (C) およびカルボキシ基含有樹脂乳化剤 (A) の残りを含む乳化液を加えて乳化重合して得られる、乳化重合樹脂である、請求項 8 記載のアニオン電着塗料組成物の調製方法。

**【請求項 10】**

前記アニオン電着塗料組成物の樹脂固形分に対する、前記乳化重合樹脂の樹脂固形分比率は、80 ~ 100 質量 % である、請求項 8 または 9 記載のアニオン電着塗料組成物の調製方法。